

# 日経「星新一賞」グランプリにしゃみずい氏 ジュニア部門は飯島敬大氏

理系的発想力を問う文学賞、日経「星新一賞」(主催:日本経済新聞社)の第13回受賞者が以下の9名に決定しました。第13回は2025年7月1日から10月7日まで応募を受け付け、応募作品は一般部門編、ジュニア部門編で、総数は第12回の1,657編より450多い2,107編でした。今回一部AIによる創作と認められた作品は前回の93編から491編となり、一般部門で受賞4作品中、グランプリを含む3作品が創作過程においてAIを使用したものでした。

## 【一般部門グランプリ】

しゃみずい氏

「ゲノムの塔」

〔あらすじ〕ウイルス工学の研究者が最愛の妻を救うために挑んだ研究とその帰結について、恩師に宛てた電子書簡として綴られる物語。軌道エレベーターの竣工も間近な近未来。遂に完成した薬剤を妻に投与するも予期せぬ異変が。全てのウイルスを根絶する完璧な薬が、どうして？トランスポゾン、ロイコクロリディウム、エントモファガ・グリリ、利己的遺伝子。妻との科学的対話を思い出す。私的懺悔はやがて、人類そのものへの問いへと至る。

## 【ジュニア部門グランプリ】

飯島敬大(いいじま・けいた)氏

「虫は歌う、ぼくらとともに」

〔あらすじ〕天変地異が起り、毎日の天気予報は命に関わる重要な情報となる。平野で暮らせなくなった人々は高地へ移住した。人は、生まれたときに国から一人一本与えられる「命の木」が作る酸素で暮らしていた。主人公の少年は、平野に落ちた種子を回収する当番の日、緑育省の役人が黒い服を着た男に大切な種子を渡しているところを目撃してしまう。そして、ある日、黒い服の男がしていたことに少年の心は突き動かされる。

## 【一般部門優秀賞(アマダ賞)】

志縞円(しじま・えん)氏 「並行自己調停株式会社」

## 【一般部門優秀賞(UIS コンサルティング賞)】

滝ノ内理乃(たきのうち・りの)氏 「エリンネルング」

## 【一般部門優秀賞(審査員特別賞)】

スドウナア(すどう・なあ)氏 「独立相関土」

【ジュニア部門準グランプリ】

大内小雨（おおうち・こさめ）氏「未来販売機」

【ジュニア部門優秀賞】

菊池康太（きくち・こうた）氏「夢の灯」

【ジュニア部門優秀賞】

能美にな（のうみ・にな）氏「となりの星は」

【ジュニア部門優秀賞】

小笠原 快（おがさわら・かい）氏「コウノトリパーク」

【日経「星新一賞」について】

星新一氏が残した創造性あふれる作品は、現実の世界で科学に取り組む人たち、未来を創ろうとしている人たちを刺激してきました。日経「星新一賞」は形式やジャンルにとらわれない理系的な発想力、想像力を問う新しい文学賞として2013年に創設。SF作家・SF評論家による複数の予備審査の後、最終審査を経て、このたび受賞者を決定しました。第13回の最終審査員は大隅良典氏（東京科学大学栄誉教授）、最相葉月氏（ノンフィクションライター）、とり・みき氏（マンガ家）、松原仁氏（京都橘大学教授工学部長）、立原透耶氏（北星学園大学教授、作家、翻訳家）、矢野寿彦（日本経済新聞社編集委員）の6人で、一般部門グランプリは賞金100万円。受賞作は日経電子版、電子版書籍サイト「honto」で配信中です。（無料。利用登録が必要）

※詳細は日経「星新一賞」公式ウェブサイト <https://hoshiaward.nikkei.co.jp/>

※第1回～12回受賞作品集も「honto」で無料配信中(利用登録が必要)

---

日本経済新聞社について

日本経済新聞社は1876年以来、約150年にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。約1500人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。主力媒体である「日本経済新聞」の販売部数は125万部、2010年3月に創刊した「日本経済新聞 電子版」をはじめとするデジタル有料購読数は122万です。

本件に対する問い合わせ

日本経済新聞社 広報室 TEL:(03)3270-0251 (代表)